

火災予防でいのちを守る

平成30年中の火災発生状況

問い合わせ 帯広消防局予防課(西6南6、消防庁舎3階、☎26・9124)

1年で33件の火災が発生

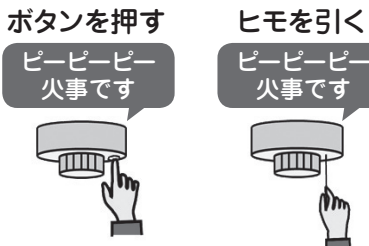
平成30年に帯広市内で発生した火災は33件で、前年と比べて1件増加しています。(表1)

出火原因の1位はこんろでした。火災の多くは、生活に身近なものが原因で発生しています。(表2)

住宅用火災警報器の定期点検と交換を

住宅用火災警報器は、内蔵電池の寿命が近づくと「ピー」という音が鳴ります。また、電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感じなくなることがあるため、とても危険です。半年に1回の点検と設置後10年を目安に、住宅用火災警報器を交換しましょう。

点検方法



正常であればお知らせするメッセージまたは警報音が鳴ります。音が鳴らなければ電池切れか本体故障の可能性があります。(メーカーにより異なります)

住宅防火 いのちを守る 7つのポイント

- 3つ ③・寝たばこをしない。
・ストーブは、燃えやすいものから離して使用する。
・こんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- 4つ ④・逃げ遅れを防ぐために住宅用火災警報器を設置する。
・寝具や衣類、カーテンなどによる火災拡大を防ぐために、防災品を使用する。
・初期消火のための住宅用消火器などを設置する。
・お年寄りや体の不自由な人を守るために、隣近所と協力体制をつくる。

表2 主な出火原因

出火原因	件数
1位 こんろ	5件
焼却炉	各3件
ストーブ	
電気機器	
2位 放火	各2件
たばこ	
3位 電灯・電話などの配線	各2件
溶接機・切断機	

表1 火災発生状況

	平成30年	平成29年	増減
火災件数(件)	33	32	1
建物火災	24	23	1
住宅	16	15	1
事業所など	8	8	0
車両火災	4	2	2
林野火災	0	0	0
その他火災	5	7	-2
野火	1	2	-1
工作物など	4	5	-1
死者数(人)	1	2	-1
負傷者数(人)	6	6	0

問い合わせ 帯広消防署指導課(西6南6、消防庁舎1階、☎26・9131)

忘れてない？サイフにスマホに火の確認

4月20日～30日 春の火災予防運動

防火への意識向上のために、春の火災予防運動期間中に、さまざまなイベントや取り組みを行います。

防火への意識向上のために、春の火災予防運動期間中に、さまざまなイベントや取り組みを行います。

住宅用火災警報器の訪問調査

設置状況の把握と、より効果的な普及啓発のため、無作為に抽出した住宅を消防職員が訪問調査します。

設置状況の把握と、より効果的な普及啓発のため、無作為に抽出した住宅を消防職員が訪問調査します。

- ・玄関先での聞き取り調査です。
- ・必ず制服を着用し消防職員証を携帯しています。
- ・消防職員が住宅用火災警報器を販売することはありません。悪質な訪問販売には十分注意してください。

不要ライター回収

子どもの火遊びをなくすため、



桜華分団による演劇の様子

防火演劇の上演

帯広市消防団桜華分団の女性団員が、市内6カ所の幼稚園・保育所で「火遊びの防止」をテーマに演劇を上演し、火と煙の恐ろしさを伝えます。

春の火災予防フェスティバル

子ども用防火衣を着て消防車から放水する消防士体験、煙体験ハウスによる煙疑似体験、はしご車や救急車と写真撮影ができるほか、住警レンジャーショーなどを行います。

日時 4月20日(土)、10時～12時
場所 イトーヨーカドー帯広店 東側駐車場(稲田町南8線)



救急車の適正利用にご協力ください

平成30年中の救急出動状況

問い合わせ 帯広消防署救急課(西6南6、消防庁舎1階、☎26・9132)

平成30年に帯広消防署の救急車が出動した件数は7630件で、前年に比べて189件増加、搬送した人数も123人増加の6766人で、いずれも過去最多を更新しました(図1)。1日当たり、約21件出動したことになります。

緊急性のない出動が増える、本当に救急車を必要としている人への対応が遅れることがあります。家庭内での事故防止に努め、救急車の適正利用にご理解とご協力をお願いします。

搬送者は軽症者が多い

近年、超高齢社会の進展などで救急需要が増大し、今後もさらなる救急出動件数の増加が予想されます。平成30年に救急車で搬送した人のうち、全体の半数以上の人が入院を必要としない「軽症」でした。(図2)

軽症者の中には、「どこの医療機関を受診すれば良いかわからない」「病院までの交通手段がない」などの理由で救急車を要請する事例もありました。救急車や救急医療は限りがあり

図1 出動件数・搬送人数

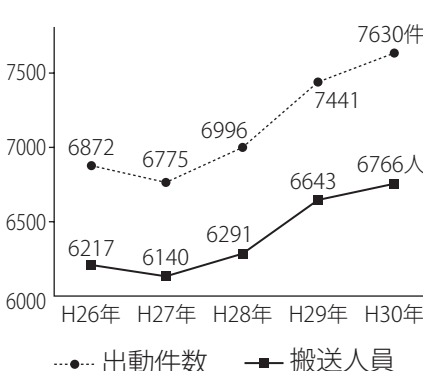
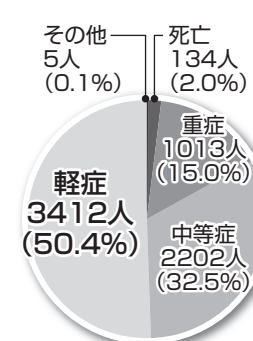


図2 搬送者の程度別割合



こんなときは迷わず119番

反応や呼吸がない、顔色が悪く呼吸が弱い、突然の激しい頭痛や胸痛を訴えているなどの状態は、生命に危険がある可能性があります。このような場合は、ためらわずに119番通報をしてください。

休日や夜間などの医療機関が知りたいときは

帯広市急病テレホンセンター

☎ 26・1099

北海道救急医療情報案内センター

☎ 0120・20・8699

携帯電話からは

☎ 011・221・8699